

平成 17 年度 ぎふじょうせんじょうじき
岐阜城千畳敷遺跡(織田信長居館跡)
現地説明会資料

平成 17 年 7 月 30 日 (土) 10:00~



岐阜市教育委員会 社会教育室
(財)岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所

●遺跡の概要

岐阜城千畳敷遺跡は、岐阜公園内に位置し、織田信長の居館があったと推定される遺跡です。永禄 10(1567)年、信長は稲葉山城主斎藤氏を追放し、山麓を含む城を大規模に改修しました。慶長 5(1600)年、関ヶ原合戦の前哨戦で岐阜城は廃城となりました。

昭和 59~62 年度に 1 回目の発掘調査が行われ、板状の巨石を立て並べ通路を造り出していることや、現在も見ることができる段々の地形が、戦国時代の造成の名残であることなど貴重な成果が挙がっています。現地は復元整備され、見学することができます。

●調査成果

【遺構】

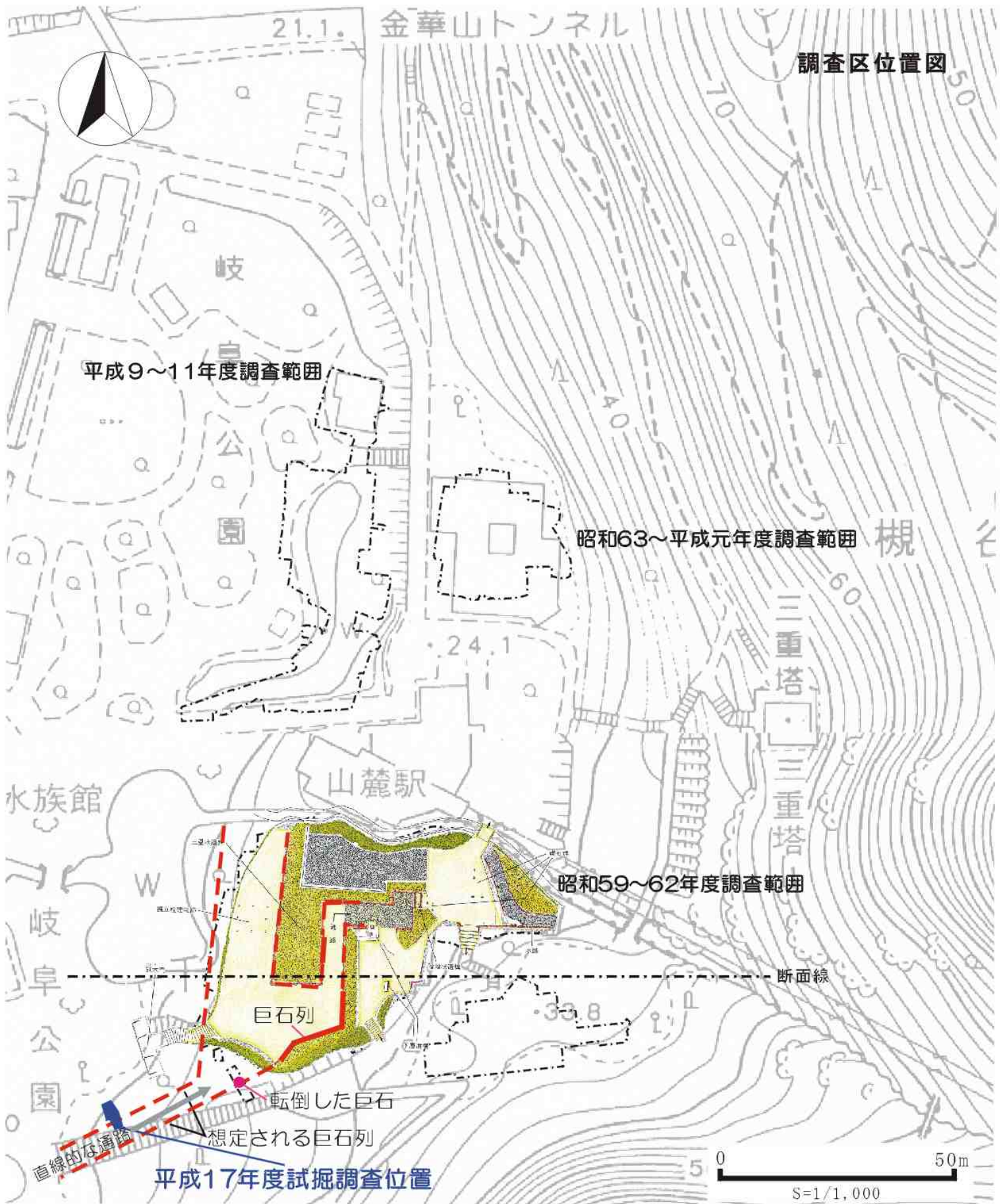
調査区の北半で、現地表から 2.0~2.5m 下で平坦な地面（平坦面 1）、また調査区の南端で、現地表から 0.6~1.0m 下で平坦な地面（平坦面 2）が出ました。平坦面 1 と平坦面 2 の高低差は約 3m あり、その間は大変急な斜面です。急斜面の直下には、東西方向に長い穴（SK1）があり、以前の調査結果や周辺の地形から推測すると、SK1 にはもともと巨石が据えられていたと考えられます。ある時期に巨石は抜き取られ、それによって盛土が崩れて今の地形となりました。地層の状況から巨石が抜き取られたのは、廃城後間もなくかもしれません。

平坦面 1 は段々地形の 1 番下（段 1）の戦国時代の地面です。この高さは、現在の公園の地面よりも 20~30cm 低く、公園の下に戦国時代の地面や建物の跡などが残っている可能性が出てきました。

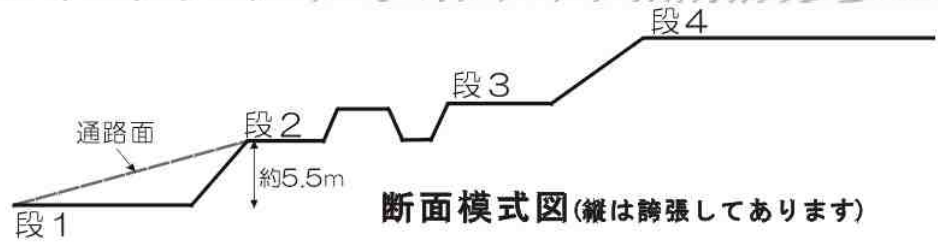
平坦面 2 は段々地形の 1 番下（段 1）と 2 番目（段 2）を直線的に結ぶ通路である可能性が高いと見られます。通路の幅は最大で 5.5m、長さは約 40m と推測できます。安土城の大手にも山上へ向かう一直線の通路が造られており、信長の城の特徴といえるかもしれません。平坦面 1・2 とも粘土で表面を舗装しています。

【遺物】

出土遺物は総数 120 点（平安時代 1 点、戦国時代 21 点、江戸時代 98 点）を数えます。戦国時代の遺物は、かわらけ（素焼きの皿）、瀬戸美濃産陶器の搦鉢、中国産染付碗・白磁皿などが出土しています。



平成17年度試掘調査位置



断面模式図(縦は誇張してあります)

北 調査区平面図・断面図

南 23m

